

平成29年度宇部市総合教育会議（第2回） 議事録

1 日 時 平成30年2月16日（金）17：00～18：30

2 場 所 宇部市役所4階 第2・3・4委員会室

3 出席委員の氏名

久保田 后子 市長
野口 政吾 教育長
三原 節子 委員
田村 賢二郎 委員
山野 あい子 委員
川崎 裕美 委員

4 事務局出席職員

大下教育部長、佐貫理事、唐沢教育次長、松田教育次長、床本総務課長、村上施設課長、網本学校教育課長、森田学校教育課長同格、古富特別支援教育推進室長、佐々木学校安心支援室長、吉村社会教育課長、有田人権教育課長、神代学校給食課長、池田学びの森くすのき・地域文化交流課長、佐野図書館長、藤原副館長、小林総務課長補佐、東野総務係長

5 趣 旨

（事務局）床本総務課長

ただ今から、平成29年度宇部市総合教育会議（第2回）を開催いたします。

本日の議題は、「コミュニティ・スクールの推進」と「英語力向上の取組み」の2件となっております。

本日の会議の終了時刻は、18時30分を予定しています。

それでは、ここからの進行は、本会議の主宰者であります久保田市長にお願いします。

（委員）久保田市長

それでは、皆さんお忙しいところありがとうございます。本日は、鶯ノ島小学校の体育館が竣工式を迎えまして、先日は、琴芝小学校の体育館で竣工式がありました。宇部市は小中学校の耐震化が遅れていましたが、ようやく先が見えてきたという状況で、鶯ノ島小学校は今年80周年ということで、皆さん喜んでおられました。

本日の議事は、「コミュニティ・スクールの推進」と「英語力向上の取組み」となっています。本日午前中には、平成30年度の予算案の発表もさせていただきました。特色ある教育あるいはコミュニティ・スクールの充実ということで、教育長の思いを込めた発表をさせていただきました。そういった事も踏まえて、今日はこの議題にさせていただき、皆様の活発な御意見を頂戴できればと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

— コミュニティ・スクールの推進 —

（委員）久保田市長

それでは早速ですが、コミュニティ・スクールの推進の資料をお配りしていると思います

が、事務局から説明をお願いします。

（事務局） 網本学校教育課長

コミュニティ・スクールの推進について、教育委員会としてのこれからの取組と、それに対する基本方針について御説明します。資料の説明に入る前に、宇部市は、平成25年度から全ての小中学校に学校運営協議会を設置して、学校と地域が連携協力して、一緒になって学校運営を行っていく、いわゆるコミュニティ・スクールとなりました。それから5年が経過し、現在では、例えば上宇部中学校では、子どもと地域の方が、一緒に授業に出たり勉強したり、昼休みに囲碁や将棋をして遊んだりする「あそぼーよ」とか「まなぼーよ」といった取組や、神原中学校では、高校受験の面接練習に、地域の方々が協力してくださっています。小羽山小学校では、放課後、地域の方が子どもたちの宿題を見てくれる放課後わくわく教室、船木小学校ではハッスル船木土曜塾など、全てを紹介することはできませんが、このように、それぞれの学校で、コミュニティ・スクールの機能を活用した特色ある取組が展開されています。また、学校が地域に助けてもらうばかりでなく、学校も積極的に地域に出向き、地域に貢献しようということで、例えば東岐波中学校では波雁が浜の清掃活動、黒石中学校では、各地域で開いている認知症サポーター養成講座に、子どもたちも参加をしています。楠中学校では、くすのきカントリーマラソンの運営ボランティアとして参加しています。琴芝小学校では、火の用心の夜回りを保護者と一緒に子どもたちも回っているなど、特色ある取組を行ないながら、地域の方からも大変喜ばれているといった状況です。

これからは、今のコミュニティ・スクールの発展させ、学校と地域が連携協力して、学校づくり、地域づくりを行っていく、更には、学校が地域づくりのプラットフォームになるという、次の段階のコミュニティ・スクールをめざしたいと考えています。平成30年度からは、新たにコミュニティスクール推進課も設置されますので、学校教育課と新しくできるコミュニティスクール推進課の連携はもちろんです、さらに活動を広げるため、他の部や課との連携もしっかり強めていきたいと考えています。

それでは、平成30年度からコミュニティ・スクールがどのように変わっていくのかについて説明したいと思います。まず、取組の方向性についてですが、取組の概要にありますように、これまで学校教育課が進めてきましたコミュニティ・スクール、それから社会教育課が取り組んできた放課後子ども教室、こういった両方の機能を活用し、関係機関や各種団体との連携によって、特色ある学校づくり、小中一貫教育、地域の活性化を進めていきたいと考えています。事業の狙いとしては、今申し上げた取組を通して、特色ある学校づくりを進めるとともに、子どもと大人がともに学び続ける社会、あらゆる世代が一体となった地域の活性化、こういったものまでめざしていきたいと考えています。具体的な取組として、特色ある教育の概要について、これまでのコミュニティ・スクールの取組は続けていきますが、新しい取組として6つ挙げています。ICT教育、環境教育、彫刻教育、英語教育、特別支援教育、宇宙教育の6つの分野において、まずはモデル校区を設定し、そこで、地域住民と一緒に学ぶ学習教室や講演会といったものを、準備が整ったところから実施していきたいと考えています。この6つに限るということではなく、地域の要望等で、ふさわしいものがあ

れば積極的に取り組んでいきますが、今掲げた6つの項目は、例えば、新学習指導要領に掲げられている「これからの社会を生き抜くために身につけさせたい力」や、宇部市の伝統文化、あるいは産業都市としての特色と関連が深いもの、この事業の狙いである特色ある学校づくり、子どもと大人がともに学び続ける社会、地域の活性化、こうしたことにつながるものと考えています。

(委員) 久保田市長

ありがとうございます。

早速ですが、ただ今の説明について、何か、御意見や御提案をお願いします。

(委員) 山野委員

平成29年4月1日現在で、山口県は100%コミュニティ・スクールの設置がされており、進んだ取組をされていて、その中でも宇部市や光市、萩市、防府市が進んだ取組をされていると聞いています。もともと学校だけで、子どもたちの教育を担うことが難しい時代になってきて、学校は地域とともにあって、子どもたちを皆でよく見ていきましょうということでコミュニティ・スクールができたと認識しています。宇部市では、平成25年度から始められたということで、新しいことを始めるときは、学校側も大変だったのではないかと思います。軌道に乗ってくると、スムーズになって楽になるということで、先ほど上宇部校区の例がありましたが、上宇部小学校と琴芝小学校、上宇部中学校で連携して、夢たまごネットとか、合同の学校運営委員会のようなものをされていると聞いています。特に上宇部校区を見ていて感じるのが、児童生徒が地域の活動に参加している様子を見て、地域の方に褒められたり、自分の役割があったり、そこで居場所があるということで自己有用感をとても高めていて、本当にいい顔をして子どもたちが働いています。そして、先生方ももちろん一緒なのですが、地域の方も一緒になって、いい顔をされていると感じています。それからもう一歩進んで、中学生が自分達で企画するということが、より積極的な地域貢献活動をされていると感じます。私がもう少し詳しく知りたいと思うことは、それぞれの学校に学校運営協議会がありますが、小学校と中学校が連携した学校運営協議会の活動というのはあるのでしょうか。

(委員) 久保田市長

山野委員ありがとうございます。コミュニティ・スクールにおいて、小中連携がどのような関係性を持っているのかということによろしいでしょうか。それでは、事務局お願いします。

(事務局) 網本学校教育課長

基本的にコミュニティ・スクール、すなわち学校運営協議会は、それぞれの学校が単独で設置しています。小学校の場合は、それぞれの小学校区で組織ができますが、中学校では、複数の小学校区で構成されることがあります。また、小学校と委員を兼ねている方も多いので、半分くらいの顔ぶれが小学校と同じになることがあります。今、小中一貫を進めているところですが、例えば、連携する小学校同士の学校運営協議会に、お互いの校長、教頭、教員が参加しあうとか、小中でコミュニティ・スクールを一つにしようという動きがありまして、川上小学校と川上中学校では実際にコミュニティ・スクールを一つにしています。

山口県では、地域協育ネットというものがあって、これとコミュニティ・スクールを一緒にしたやまぐち型地域連携教育を掲げていますが、県内ではその方向に向かっており、小学校と中学校が、一緒になって地域連携教育を進めていこうという動きが強くなっています。

(委員) 山野委員

ありがとうございます。

(委員) 田村委員

只今お話のありました川上の学校運営協議会で、私は委員として参加してしまして、2年になりますが、会議など色々行っています。まだまだ、盛り上がりがこれからかなと思いますが、しっかり進めていきたいと思っています。

私が持っているコミュニティ・スクールのイメージは、地域住民が寄ってたかって学校を支援し、子どもたちの教育に携わっていくところが、コミュニティ・スクールなのかなと思っています。見守り隊であるとか、お祭りの運営、授業の教材作りを手伝う、授業そのものや、クラブ活動をお手伝いするなど、学校や教員の負担を減らし、それによって教員が子どもたちと触れ合う時間を増やしていくということが、コミュニティ・スクールの一つの素敵な形であると思っています。現状では、逆に仕事が増えている部分もあるのであれば、本末転倒になりますので、そのあたり注意していかなければいけないと思います。例えば、お祭りを開催しても校長や教頭はよくいらっしゃいますが、教員の参加はなかなか難しいようで、できれば参加して欲しいと思いますが、教員にも自分が住んでいる地域の活動もあるでしょうから、負担を減らすということを考えながらコミュニティ・スクールが充実していけば良いと思います。

(委員) 久保田市長

ありがとうございます。コミュニティ・スクールで、地域の皆さんが学校をサポートすることで、教員が教育に集中する時間が増えるといったことを期待されているということと、一方でコミュニティ・スクールに関わることで、教員の仕事が増えてもいけないという御指摘もありましたが、事務局からお願いします。

(事務局) 網本学校教育課長

学校現場では、コミュニティ・スクールが始まって、確かに行事が増え、土日参加の行事が増えたという声も上がっています。働き方改革の動きもあって、管理職が、教員に土日の行事参加を要請しにくい状況にあります。しかし、思いのある教員も多く参加しています。子どもたちのために何かするとすれば、時間もかかるし人手も必要となります。田村委員も言われましたが、スタート時には様々な問題がありましたが、5年が経過し、成果が目に見えて出てきている、学校が本当に良くなったというところが出てきていますので、さらに進めていけば、教員も子どものためにという思いでやっていますので、これから増えていくのではないかと思います。

(委員) 野口教育長

先ほど5年経過したという話がありましたが、これまで多くの成果が挙がっていますが、課題もあります。この度コミュニティスクール推進課が設置されることとなり、コミュニティ・スクールのあり方を変えていかなければならない、次のステージに入っていかなければ

ならない時に来ているのかなと思います。例えば、地域の行事に多くの子どもが手伝いに参加していますが、子どもが行けば教員も行かなければなりません。これからのステージは、地域に子どもが出て行けば、教員がいなくても、地域の方と一緒に活動できるようなステージに入っていくことが必要かなと思います。地域から、行事に教員が参加しないという声もありますが、コミュニティ・スクールを進めていけば、地域の意識も変わってくると思いますので、新しいコミュニティ・スクールを作っていく上で、地域の意識も高めていきたいと思っています。

（委員）久保田市長

教育長から、学校運営協議会の立ち上げから5年経過し、新たな仕組みを作る時期に見えてきた課題、良い事例も生まれてきていて、これから次のステージへ進めていきたいとのことでした。御承知のように、宇部市では部活動指導員についても、県内第1号としてスタートし、市民の皆さんの専門性を活かした活躍をしていただき、非常に良い成果が出ています。全てを教員がやらなければいけないということから、少しずつ地域の力を生かしていけたらと思います。それから、現在提案をしている新年度予算の中には、教員に対し、事務的なサポートがもっとできるよう考慮しています。教員が教育に集中できるよう、また子どもたちとの時間を大切にできるようにと考えています、地域の行事に子どもたちが参加する際に、教員がついていかないこともあるという野口委員の意見でしたが、これについていかがでしょうか。

（委員）三原委員

先ほど教育長がおっしゃられた、教員がいなくても子どもたちと地域の方でやっていけるのは理想の形かなと思います。私の住んでいる地域では、数年前から子どもの人数が減少し、働く母親が増えて子ども会が消滅してしまっていて、地域の結びつきが薄くなったと思っていたところに、コミュニティ・スクールが始まったことは本当に意味があり、ありがたいことだと思っています。学校、家庭、地域の温かい絆づくりが、一番大事だと思います。誰かが負担を感じるようになっては長続きしないので、地域の方々の学校への支援と子どもたちの地域への貢献が、バランスよくできて、誰もが負担を感じずにできる範囲でやっていかなければ、長続きしないと思います。継続することが大事だと思いますので、その辺がうまくいって欲しいと思います。

コミュニティ・スクールが始まって5年が経過していますが、周りの人に聞いてみると、まだコミュニティ・スクールのことを知らない方もいます。回覧板にもコミュニティ・スクールだよりがはさまれているのですが、読んでいない方もいらっしゃるようです。知っていれば、関わりたいと思っている方は大勢いると思いますので、市民の方々に周知徹底し、地域差が無いように、多くの方々の力を借りて、活動ができていたら良いと思います。

（委員）久保田市長

学校と地域と家庭の温かい関係づくり、持続的が大事であるという御意見でした。子どものいない家庭では、地域とのつながりも希薄になりがちですから、もっとコミュニティ・スクールを知ってもらう必要があるということですが、三原委員の御意見に対して、いかがでしょうか。

(川崎委員)

私が5年前にPTAの副会長になった時からコミュニティ・スクールが始まって、この中でコミュニティ・スクールに一番関わっているのではないかと考えてますし、このことが協議事項に取上げられたことを、うれしく思っています。今までのコミュニティ・スクールの活動は、校区内の活動を広げることや、学校から問題提起があったことに対して取り組むことが多かったのですが、新しい活動を提示していただけたことで、こういう発想もあったのかと目から鱗で、とても新鮮な気持ちになりました。

厚南では、小学校と中学校の間に彫刻を設置していただき、学芸員を招いた彫刻の学習会や、中学校の美術部と一緒にスケッチ大会をする取組が広がります。宇宙教育に関しても、放課後子ども教室で年一回、夏休みに星空観察会が行われていましたが、5年生の理科の授業に沿って開催してみたいという提案を何度かしてきました。季節によって見える星座も違うので、年4回座学をした後で星空観察会を行うことや、スケッチ大会や星空観察会に、個人で英語教室をしている先生に来ていただいて、子どもたちに英語で声掛けをしていただいたら、英語教育にもつながっていくなど様々な考えが浮かんでワクワクしてきました。今までは、一回のイベントで終わっていて、子どもたちの学びに広がりがなかったのですが、父親や母親をはじめ、祖父母と一緒に学ぶことができると、家に帰ってからそのことが話題となって、家庭での話が広がりますし、図書館に行って本を探してみようという話になって、興味を深めることができ、継続した学びができるようになるのではないかと思います。

子どもと大人が共に学び続ける社会で、子どもの教育上において、とても重要なことだと思います。私がこのような発想ができるようになったのは、今、市PTA連合会や県PTA連合会の仲間と、常に情報交換しているという環境もありますが、今年度、県の地域協育ネットコーディネーター養成講座に参加しており、全国各地の様々な事例発表や、多岐にわたる学習をすることができたので、こういう発想ができているのかと思います。宇部市にも、ほかにコーディネーター養成講座や家庭教育アドバイザー講座を受講されている方がたくさんいらっしゃるので、学校現場の負担軽減を考えると、こうしたコーディネーターの活用は、とても重要になっていくと思います。コーディネーターの意見交換の場や学習会があると、次のステージに進みやすいのではないかと思います。この養成講座は、コミュニティ・スクール便りの作り方や、広報の仕方を学べる場でもありますので、そういう方々の情報交換の場ができたと思います。

学校現場では、様々な支援が必要な子や、周りの方の関わり方の配慮が必要な子がたくさんいます。活動を広げるといろんな方がいらっしゃるの、配慮が必要な子に対してきついこともあります。校区でも、人権教育の場はたくさんあるのですが、すべての方が参加しているわけではありませんので、子どもたちが活動しやすい場となるような配慮ができる大人も育ててほしいと思います。

(委員) 久保田市長

川崎委員ありがとうございます。大切な御指摘もいただきました。スタートの時からPTAでコミュニティ・スクールに関わって来られて、今までやってきたことの一部ではありますが、コミュニティ・スクールということに対して、新しい理解をしていくという姿勢も大

切であるということでした。

宇部市では、配慮が必要な子どもたちへの支援ボランティア制度が始まって7年目ですが、年1回教育長にも出ていただいて、皆さんと交流をしています。何年か前は、学校にボランティアが入ってくることに對して、十分理解していない管理職がいて大変だったという声もありました。一方では、大変理解があつて、職員室に机も用意されていたなど、学校によつて、それほど差がありました。学校というところは、外部の人を受け入れることに慣れていませんので、特別な配慮が必要な子どもに対する支援ボランティアの養成講座を受けた支援ボランティアであっても、学校の人材と認めてもらうまでに、市が様々な応援をしなければならないなどの課題もありました。最近では、うまく整つてきてすごく良くなつてきたという意見があり、とてもうれしく思いました。教育長がずいぶん学校に指導して下さつたと思います。そういうことを考えると、コミュニティ・スクールで色々な方が学校に入ってくる中での配慮が必要になると思います。

(委員) 野口教育長

以前は、ボランティアの方が、教員となかなかコミュニケーションが取れないと言われていましたが、最近では、校長と校長室で話ができただけなど良い傾向に変わつてきていると思います。支援を要する子どもはたくさんいますが、そういう学校側の配慮があれば、ボランティアの方も、非常にやる気を持つて取り組めると思います。

(委員) 山野委員

コミュニティ・スクールを継続させていくのに大切なことについて、去年の夏にコミュニティ・スクールの力ということで文科省の方が講演をされて、そのときに、地域の方が教員はなぜいないのかとか、なぜ親は出てこないのかといわれたときに、そういう考えではボランティアはできない、してあげている考えから子どもたちのために自分が役に立つことができる幸せを感じるというように意識を変えていかないと負担感が出ると話されました。ずっと続けるためには、自分の考え方を変えていくということが地域に浸透していくと良いと思います。

それと、モデル校としていろいろ取り組まれると思いますが、こんな特色あることができるという提案や、支援をしてくれる機関があればありがたいのではないかと思います。先ほど市長から、事務的なサポートの予算も確保するとのお話もありましたが、例えば、研修会等の講師の謝礼などにも使えるのですか。

(委員) 網本学校教育課長

コミュニティ・スクールの予算については、各学校の企画によつて変わりますが、多いところで7、8万円となっています。

(委員) 野口教育長

今の予算の中でできることと、もっと新しいことをやりたいから予算が欲しいということもあると思います。講師の謝金についても、支出することは可能ですし、教育委員会としても柔軟に對応したいと考えています。

(委員) 久保田市長

市長部局としても、頑張る地域応援のプロジェクト事業を立ち上げていまして、鶴ノ島小

学校なども、3世代交流農園を学校の中に作って、まさにコミュニティ・スクール事業として提案されて、見事採択を受けて実施されています。それから、英語でサマーキャンプをやって、英語の会話を地域で広げようといったこともやっています。

コミュニティ・スクールは、教育委員会の予算だけではなく、地域がお金を確保して、人も出して学校で活動するということがどんどん広がってきていると思います。

他によろしいですか。それでは、コミュニティ・スクールについては、皆さんから積極的に進めるように、またその進め方について、学校も地域も負担を感じない、温かい関係を作れる、子どもも大人も一つのステージで学び続けられるコミュニティ・スクールとして、イベントだけで終わるのではなく、継続的な教育の内容として進めて欲しいということでした。これから次のステップに入るコミュニティ・スクールについて、新年度予算にもいろいろ案として出していますので、そうしたことも実現できればと思います。それでは「コミュニティ・スクールの推進」の議題については以上とさせていただきます。

— 英語力向上の取組について —

(委員) 久保田市長

まず、事務局から説明をお願いします。

(事務局) 網本学校教育課長

英語力向上の取組について御説明します。小学校では平成32年度から新しい学習指導要領の実施に伴って、外国語活動外国語科の授業が始まりますが、すでにその移行措置として準備をしまして、来年度から小学校3年生と4年生で年間15時間の外国語活動、5年生6年生では、年間50時間の外国語科の授業がスタートします。宇部市でも平成29年度は、小学校教員を対象とした英語教育研修会を定期的で開催してきました。そのうちの1回は、文科省の教科調査官を講師に招いて、実際に模擬授業をしていただきました。これから外国語の授業を行っていくうえで、必要な研修を行ってきました。

今後の宇部市の取組としては、宇部市がめざすのは、使える英語を身につけさせるということです。英語に必要な力は、書くことや読むこと等ありますが、グローバル化が進む社会で活躍するために、特にコミュニケーション能力に必要な聞くこと、自分の思いを片言でも伝える話すことの能力を子どもたちに身につけさせたいと考えています。そのために柱となる4つの取組として、ネイティブによる良質の英語、本物の発音に触れる機会を増やすことです。来年度ALTを増員するための予算案が計上され、全ての小学校の年間15時間の外国語活動の時間に、ALTを配置することができます。さらに、試験的に進めてきたオンライン英会話についても、特に中学校での効果が実証されていますので、全ての中学校で、オンライン英会話を実施していきたいと考えています。コミュニティ・スクールの力を使った放課後の英語教室、ここにもALTや、大学、高専の大学生や留学生の活用を計画しています。2つ目は、デジタル教科書、電子黒板といったICT機器を活用して、効果的な学習に取り組んでいきます。子どもたちの興味関心を高めながら、聞く力、話す力をつけていきたいと考えています。3つ目は、英語検定試験の検定料の補助を実施したいと考えています。これは、文科省が中学校卒業の時点で、50%の生徒に英語検定3級程度の力をつけることを目標とすると掲げていますので、英語検定に合格させることが目的ではありませんが、文

科省が掲げる力を測る物差しとして、あるいは英語学習への意欲を高めるために、英語検定の3級を受ける子どもたちに、検定料の半額を補助したいと考えています。4つ目は、中学校と違い専門性を持っていない教員が英語を教えることとなるため、小学校で英語を教える教員の指導力が課題となりますので、実際に授業を行う教員の指導力を高める研修を続けていきたいと考えています。宇部市は、新学習指導要領に対応するためにどこの市町よりも早く準備を進めてきました。必要な予算も計上していただきましたので、子どもたちに使える英語をしっかりと身につけさせたいと考えています。

(委員) 久保田市長

ありがとうございます。

早速ですが、ただ今の説明について、何か、御意見や御提案をお願いします。

(委員) 田村委員

使える英語というところが大事で、中学、高校、大学で英語を勉強しながら話せないという現状があります。使える英語ということは、使うから使える英語になるので、使う場をどれだけ増やせるかということが大切だと思います。英語でなければだめという風に追い込まれると、人は力を発揮するということがあると思いますので、そうした場面を増やしてあげればと思います。実体験が大事だと思いますので、イングリッシュキャンプなどいい体験だと思います。以前見学したことがあります。皆さんもじもじしてなかなかしゃべらないのですが、そのとき、近くにいた子に、何でもいいから話してみ、テレビで出川哲郎さんが単語とボディランゲージだけで通じているように、伝えたいという気持ちがあれば文法は関係なく伝わるものだと言いました。そうした体験があって、話したいという気持ちが出てくるので、そうした機会を増やして欲しいと思います。一番良いのは現地に行くことで、留学ができればとても良いと思いますが、今ニューカッスルに10人ぐらい派遣されていますが、これをもっと増やすことができれば理想的ですが、せめて12人、各中学校1人に行ってもらって、帰ってきたら学校で発表する場を設けて、行かなかった生徒たちにもその体験を伝えることで勉強になると思います。地元紙に、参加した生徒の感想が掲載されていますが、それを読むと皆いい体験をしたと感じられます。全員参加は難しいですが、こうした体験をする子どもが増えていけば良いと思います。

これは、実現は難しいと思いますが、修学旅行が海外であってもいいかなと思います。逆にホームステイをしてもらうということもあります。自分と同年代の子が自宅に来ると、なんとか英語で伝えたいという気持ちになるでしょうからすごく勉強になると思います。私の子どもも、中学2年の時にジャンボリーがありまして、ジャンボリーが終わった後、2泊3日でホームステイをして、そこで何とか自分の英語が通じたということがあって、それが自信になって英語を頑張らだしたことがありました。ホームステイだと経費もそれほど掛かりませんので、積極的に進めていただけたらと思います。ネイティブに触れるという機会を増やして欲しいと思います。

(委員) 久保田市長

田村委員ありがとうございます。地方都市は、仕組みの中で作りこんでいかないと英語を使うチャンスが乏しいということがあります。ただ、宇部市には空港もありますので、やり

方次第で国際交流が進められると思いますし、大学にも留学生がいます。また、高専も学生を外に出す研修制度を充実させているということも聞いていますので、いろいろな方法があるのではないかと思います。

(委員) 三原委員

ここ数年、京都に行く機会がありましたが、郵便局の窓口や飲食店の年配の方、バスやタクシーの運転手の方も英語で外国の方とコミュニケーションをとられていて驚きました。英語を使わざるを得ない状況ゆえのことだと思いますが、こうした環境が宇部にないので、英語を使わざるを得ない状況を教育現場で作ることが必要だと思います。宇部でも年々観光客や留学生も増えていきますし、ときわ公園をウォーキングしていると、韓国の方が多くいらっしゃっています。これから、子どもたちも英語を使う場面が増えてくると思います。留学やホームステイなどの英語漬けの環境にいと、一番英語力が身につくと思いますが、なかなか費用も掛かり、難しいと思います。今回、ALTの人数を増やそうとされていることを大変喜んでます。留学やホームステイが難しくても学校に行けば、ネイティブの方の英語に触れる機会が増えることは、大変すばらしいと思います。イングリッシュキャンプの参加者も増えていて、定員を超える応募があったと聞いています。次回は、希望者がすべて受け入れられるように実施していただきたいと思います。更に、宿泊を伴うものまでに発展してほしいと思います。修学旅行について、大阪に大阪イングリッシュビレッジが数年前にできたと聞いていますが、こうしたところを修学旅行に取り込んでいる事例はありますか。

(事務局) 網本学校教育課長

そうした事例を聞いたことはありません。

(委員) 三原委員

ホームページを見ると、素晴らしい施設のようなので、修学旅行でこのような施設に行くのも良いと思います。また、京都に行っても外国の方にインタビューをするなど、色々な場面で使う英語を体験させるとよいと思います。

(委員) 山野委員

20年ほど前から、小学生も英語を学ぶようになり、自分の子どもを英語教室に通わせたことがあります。その際、自分もついていったことがありましたが、その教室の先生は、英語しか話さず、自分に話しかけられたらどうしようと思っていましたが、子どもたちは、前から英語が分かっているかのように準備をしたり、話したりしていました。今回ネイティブの方の英語に触れる機会を増やしていただけるということで、大変ありがたく思っています。それと、子どもは積極的に話すことが難しいと思いますが、英語が楽しいとか話してみたいという気持ちが持てると良いと思います。

先日、やまぐち教育の日ということで、教育県民大会に参加した時に、シナジー効果をめざす人と社会と未来とつながる英語教育ということで、小学校、中学校、高校の学校間交流での英語教育についての実践発表がありました。その中で、一貫性のある連続的、発展的な取組を行うと、児童生徒のコミュニケーションに対する意欲が向上し、英語力アップにつながるという発表でした。それで、共通のゴールをめざすということで、タブレットで、中学生が英語を話す動画を撮影して、小学生がまねをして動画を撮影して、中学生に見せるとい

うことがありました。教員等と話をすることは、児童生徒が多ければ時間が少なくなります
が、子どもたち同士で楽しく英語が使える方法を導入すれば、もう少し英語力がつくのでは
ないかと思いました。

(委員) 川崎委員

赤ちゃんの時に、両親が話していることを聞いて、言葉を覚えていくのだと思いますが、
日常的に英語に触れる機会があれば、英語力向上に最適だと思います。ホームステイ体験が
できる子どもは限られると思いますが、様々な体験が、子どもの学びにつながっていくこと
は多いと思います。

日常的に英語に触れるためには、ネイティブの良質な英語だけではなく、ちょっと英語が
得意な校区にいる英語教室の先生などが、身近に声掛けをしてくださって、英語で話しかけ
られることに抵抗感がない子どもが増えると、もっと英語に興味を持って、年間50時間
では使える英語にはならないと思いますが、興味を持つことはできると思います。コミュニケ
ーションツールですので、毎日聞いて話すことが一番重要だと思います。PTAの全国大会
で大都市に行くことがあります。ホテルのエレベーターでは、外国語が飛び交っていて、
外国の方が多いと実感します。子どもたちもそういうところに行くと、日本語ではない言葉
に触れることも多いので抵抗感も少ないと思いますが、もっと身近に英語が感じられる現場
があればと思います。

(委員) 久保田市長

ありがとうございます。使える英語にするためにも、英語をもっと身近にということで、
地域の中にいらっしゃる英語が得意な方にもっと参加して欲しいというご提案がありまし
た。そのほかにも多くのご提案がありましたが、教育長いかがでしょうか。

(委員) 野口教育長

鵜ノ島小学校体育館の竣工式の中で、6年生が桃太郎の英語劇をしていました。1年生も、
桃太郎の話なので理解ができ、大変素晴らしいと思いました。宇部は、都会と違って外国の
方が少ないといいますが、それは関係なく、機会や環境をたくさん与え、方法を工夫するこ
とで、子どもたちに素晴らしい英語教育ができると思います。これからその方法を検討して
いきますが、ALTを活用し、オンライン英会話や、イングリッシュキャンプ等、三原委員
が言われた、宇部で教育を受けてよかったという取組ができると思います。

(委員) 久保田市長

ありがとうございます。私も地方都市だからといって、英語の学びが乏しいとか機会がな
いということを言われることは、残念に思います。皆さんおっしゃられたように、たくさ
んの方法があると思いますので、着実に実践していけたらと思います。御提案いただいたニュー
ーカッスルへの派遣を10人から12人ということですが、私学もありますので、もう少し
増やすことも検討して良いのかもしれませんが。イングリッシュキャンプも人気が出てきて、
人数制限をつけることも、もったいないと思いますし、宿泊ということも、さらに複雑な会
話も必要となる可能性もありますので、有効な御提案だと思いました。ホームステイにつ
いては、市内の様々な団体が実施されていますので、こうしたところをもう少し広げること
ができるのではないかと思います。身近なところでということで、最初の議題でありましたコ

コミュニティ・スクールの機能も活用できるのではないかと思います。広く声をかければ、留学生や、留学経験のある方などもいらっしゃると思います。コミュニティ・スクールとして、ALTが授業を行うときに、教室の後ろに地域の方の席を設けて、授業に参加できるようにして、学校に応援に来てもらうだけでなく、地域の方に学びの場として活用してもらうといった取組もできれば良いのではないかと思います。わかるだけでなく使える英語、使えるためには身近に英語に興味を持てる環境づくりなど色々と御提案をいただきましたが、教育長としてもしっかり取り組んでいくといわれました。

(委員) 三原委員

私もホームステイを受け入れた経験がありますが、受け入れるとなると、寝室の確保などハードルが高くなる面がありますが、ホームビジットという制度を、山口県国際交流協会が実施してしまっていて、これは日中だけの交流になりますので、少し気軽に受け入れられると思います。英語でコミュニケーションをとるというだけでなく、異文化を知ることや、違う価値観に接するという経験が出来、これは子ども達にとって大切なことだと思います。

(委員) 久保田市長

ありがとうございます。ホームビジットについては、様々な活用が考えられると思います。英語の学習は、異文化を知ることや異なる価値を認め合うことにつながるという大切な御指摘をいただきました

(委員) 田村委員

教員がネイティブ並みに話せば一番良いと思いますが、それは難しいと思いますので研修は十分に行ってほしいと思います。目標として、民間の英語力検定などにチャレンジして欲しいと思います。

2年後には、東京オリンピック・パラリンピックがあり、インバウンドが期待されますが、ぜひ宇部にも大勢の外国の方に来ていただいて、そこで生の英語に子どもたちが触れられるようなことができれば良いと思います。宇部市として力を入れていただいて、多くの方が来るような事業をしていただいて、子どもたちと触れ合える機会があればと思います。

(委員) 久保田市長

ありがとうございました。2020年東京オリンピック・パラリンピックを活かして、もっと異文化理解や英語力の発揮をという御提案でした。宇部市は国際交流都市として、発展していこうということを掲げています。空港がありますので、更に力を入れるいいタイミングだと考えています。教員の英語力検定についていかがでしょうか。

(委員) 野口教育長

教員の指導力は一番つけていかなければならないものであると考えており、様々な研修を行っていますが、自ら挑戦することも必要だと思います。小学校の教員は、英語を教える訓練を受けていませんので、今後、英語教育力の向上のため、オンライン英会話の教員版などの活用を検討したいと思います。

(委員) 久保田市長

子どもだけでなく、教員や、地域の方も含めて英語を学んでいくという広がりがコミュニティ・スクールを通じてできると良い雰囲気もできるのかもしれない。

(委員) 川崎委員

取組の紹介なのですが、厚南小学校では、朝の読み聞かせのボランティアに、高校の英語教員がきてくださって、英語版の絵本を読んでいただき、子どもたちは日本語版を読むことを実施しています。

(委員) 久保田市長

素晴らしい事例を御紹介いただきました。ほかにそういう事例はありますか。

(事務局) 網本学校教育課長

各学校に図書館専門員を配置していますが、その中に英語が得意な方が何人かいらっしゃって、読み聞かせを英語で行うこともあります。

(委員) 久保田市長

その他よろしいでしょうか。本日の議題、「コミュニティ・スクールの推進」と「英語力向上の取組み」について、活発な御意見や具体的な御提案をいただきましたので、これから教育長と協議をしながら、皆さんの御意見が活かせるよう市長としてしっかり協力をしていきたいと思えます。

以上で、平成29年度宇部市総合教育会議（第2回）を終わります。